

2016年
218号
7月20日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
〒343-0845
埼玉県越谷市南越谷2-13-49
(越労連内)
TEL・FAX 048-989-2472
E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp



さいたま地裁前

機となりました。きたら皆で拍手を聞かされましたが、構内の拍手は禁止という事で空拍手となりました。実際の傍聴ができないのでは行く意味がないのではありませんかという言葉が聞こえてきます。

年金裁判の第1回口頭弁論が7月13日（水）にさいたま地裁105法廷で開かれた。9時半にさいたま県庁の左横にあるさいたま地裁に行く。法廷には原告（45名）は全員入れるが一般傍聴は27名しか入れないので希望者が多い場合は整理券をもらい、抽選で当たった人に傍聴券が渡される。この日整理券をもらったのは88名で倍率は約3倍だった。

ただ曾根県本部書記長は当選した傍聴券を全て回収し、原告のいない支部に再配布しました。今後支部で傍聴に行かれる方のためへの注意点。裁判所内では写真撮影は禁止です。写真をとる時は門の外から撮らなければなりません。傍聴する場合に携帯電話の電源を切る、帽子は被ったままではいけない、傘の持ち込みは禁止（入口の傘立てに置く）などです。

越谷支部は宇佐美県本部委員長&支部副支部長が原告で必ず出廷すると思いますので支部の参加者の傍聴は難しいと思われます。10時半までに原告と傍聴者は法定に入っていくました。裁判にかかるとき間は30分ほどだったため入れなかつた人は構内の建物の前で待機となりました。裁判終了後、原告が出てきたら皆で拍手で迎えようという手筈を聞かされました。

年金裁判第1回口頭弁論
さいたま地裁105法廷
で開かれる



発言する伊藤（剛）さん

こうした人が
増えれば支部
そのものが変
わるといふ事
です。また元
気のよい女性
の発言が目立
た大会でした。
(五十嵐)

7月14日（水）年金者組合埼玉県本部の第28回定期大会が与野本町コミュニティセンターで開かれました。

越谷支部からは代議員として五十嵐書記長、森山副支部長、伊藤（剛）書記次長の3名が出席しました。総括、決算、方針、予算を審議、各支部からの報告から「楽しければ変わる、学べば変わる、動けば変わる」という事が確認されました。「楽しければ」「学べば」「動けば」何が変わるかという、年金者組合のこうした活動に参加すれば、一つは本人自身が変わり、その変わった人の周りにい

第28回埼玉県本部
定期大会開催

います。が、実際の法定に入ってもそこで行われていた事は素人にはよくわかりません。裁判の終わった後の報告集会で弁護士さんから説明してもらってやつの意味がわかりません。今回も終わった後、さいたま地裁から歩いて5分ほどの「ほまれ会館」へ。そこでの報告集会で齊藤弁護士の詳しく説明してくれました。報道としては埼玉テレビが撮影していました。次回は10月19日の午後3時という事です。

この裁判は「年金」というものをいろいろな世代の人達と議論できる材料を提供してくれるという意味で重要だと思えます。そのためにも今後の支援体制を如何に持続させるかが大事になると感じました。

(五十嵐)

今回の参議院選挙は、憲法9条を閣議でかつてに解釈し、「戦争法」を数の力で成立させ海外で戦争を可能にしたことから「海外で戦争する国」づくりを許すのかどうか。憲法の国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の三原則を守る運動が国中に広がった中で、32の一人区全てに民進・共産・社民・生活の4党の統一候補を擁立した初めての試み。改憲勢力が3分の2を確保するのか。野党がそれを阻止するのか。選挙権が20歳から18歳に引き下げられた初めての選挙、等々の注目の選挙でした。

結果は、一人区では東北地方で特に顕著に現れ、11の選挙区（青森、岩手、宮城、山形、福島、新潟、長野、山梨、三重、大分、沖縄）で勝利し重要な成果でありこれからつながることが期待されています。残念ながら改憲勢力が3分の2を占めました。自公はこの選挙戦で憲法改正問題を隠し続けていたことから、今回の選挙の争点とはならず、国民も憲法改正を白紙委任したわけではありません。特に憲法第9条の改正については、さまざまなアンケートでも多くの国民が反対を表明しており、これからも野党と国民の戦いが重要になってきています。

この参院選の結果を見て、これから日本の国はどこへ向かっていくのか・・・と危機感を覚えたジャーナリストの鳥越俊太郎氏が声をあげ、今月末に行われる東京都知事選挙に野党4党の統一候補として立候補し、現在選挙戦の真っ只中です。

これからの日本がどうなってしまうのか、孫やひ孫の時代がどうなっているのかを見る事のできない年金者は心配で心配である世に行けません。生きている間は、子や孫やひ孫が安心して暮らせる世の中になるように、土台をしつかり築いておかなければなりません。今からできる事を努力していききたいと思う今日このごろです。（森山）

点晴

いま日本は
どこへ行く
しているのか